

第1回  
台東区基本構想策定審議会  
小委員会第3グループ

平成29年12月25日  
台東区役所10階1001会議室

台東区企画課

○出席者  
(9人)

委員長	安島 博幸	委員	懸田 豊
委員	片山 泰輔	委員	山谷 修作
委員	本目 さよ	委員	成田 多恵子
委員	早津 司朗	委員	二木 忠男
委員	富士 滋美		

○欠席者  
(1人)

委員	小田切 満寿雄
----	---------

○事務局

企画課長	前田 幹生
文化振興課長	内田 円
観光課長	飯野 秀則
産業振興課長	菅谷 健治
産業振興事業団経営支援課長	上野 守代
環境課長	松原 秀樹
清掃リサイクル課長	朝倉 義人

(午前10時00分開会)

## 1. 開会

### ○事務局

—配布資料及び出席状況の報告—

—参考資料についての説明—

## 2. 議題

### (1) 小委員会の進め方について

#### ○委員長

議題(1)の小委員会の進め方についてです。第5回審議会においても、事務局より説明がありましたが、本日は第1回ですので、この小委員会での到達点を再確認する意味もありますので、事務局より再度説明をお願いしたいと思います。

#### ○事務局

—小委員会の進め方についての説明—

#### ○委員長

ありがとうございました。ただ今事務局から、この小委員会においては、担当する産業・観光・文化・環境の4分野それぞれの20年後の望ましい姿を導き出すことがゴールだというご説明がありました。そのゴールに向けて、本日の第1回は、審議会の延長のようなかたちになりますけれども、これまでの基本構想検討シートを活用して、4分野の課題と課題解決に向けた方向性について審議をしていただきます。そして次回の第2回は、ゴールである20年後の望ましい姿を考える上での、いわばアイデア出しの回となります。第3回は最終的に4分野の20年後の望ましい姿を決定していきます。

また、審議会では多くの横断的な視点でのお話が出ました。例えば文化というようなものは、いろいろな分野にまたがってまいります。このような他の分野にまたがることにつきましては、事務局が基本構想の基本目標を作るにあたり考慮していただくということです。まずこの小委員会では、分野ごとの20年後の望ましい姿を導き出すことを最終目標にしながら審議を行ってまいりたいと思います。

進め方につきまして何かご意見ございますか。よろしいですか。

### (2) 基本構想検討シートについて

#### ○委員長

それでは、基本構想検討シートについて、を議題として進めてまいりたいと思います。まずは事務局より、これまでの審議会での意見を踏まえた各シートの変更点について説明をしていただき、その後意見をいただく時間を取りたいと思います。それでは、基本構想検討

シートの変更点について、ご説明をお願いします。

## ○事務局

—基本構想検討シートの変更箇所についての説明—

## ○委員長

ありがとうございました。それでは、委員の皆さまからご意見をいただきたいと思います。なお、審議会では分野ごとに区切って意見をいただきましたが、小委員会では分野を区切ることなく、自由にご意見をいただきたいと思います。発言される際は、お手数ですが、どの分野についてのご意見か、また資料を確認する際には、資料番号を冒頭におっしゃっていただきますようお願いいたします。

それでは、ご意見をお願いします。いかがでしょうか。

## ○委員

観光分野の資料3「都の現状」が少し気になります。国の現状としては、外国からたくさん人が来ているということになってはいますが、都の現状としては、国内からの旅行者あるいは消費額が全て減になっています。これは今年何かそのような原因があるのでしょうか。国内の日本人が興味を持たないものに、いずれ外国人も興味を持たなくなってくるという恐れがあると思いますので大変気になるのですが、いかがでしょうか。

## ○委員長

なかなか厳しいご指摘だと思います。これは多分都だけではなく、日本全体で国内旅行が少なくなっているということがあります。それからもう一つは、都の消費額が減っているのは、いわゆる中国人の爆買いのようなものがいったん収束したため、少し減っていると考えられます。将来の目標として、年間訪都外国人旅行者数が2020年に2,500万人という、非常に大きな目標を掲げています。爆買いの終息による短期的なことではないかと思っておりますが、国内旅行者にとって魅力的な場所であり続けるにはどうしたら良いかということは、東京都だけでなく、国についてもそうですし、あるいは台東区についても考えていく必要があるのかと思います。

## ○観光課長

国内の旅行者の傾向ですが、比較的経済状況と比例してしまして、経済が比較的好調なときには、皆さん消費活動が活発になり、旅行の泊数なども増えるという傾向が見受けられます。しかし、なかなか一概に減の要因はつかめないと思っております。

それから、消費についても同じように、国内旅行者の増減によって消費が引きずられて減少してくる傾向があるでしょうし、増えていく傾向もあります。日本の経済状況と比較的リ

ンクしてくる部分があるのではないかと観光課では分析している部分があります。

## ○委員長

それに関連して申し上げますと、やはり待っていても観光客は増えないので、魅力的な場所にしていかなければいけません。それでは、どのように台東区を魅力的な場所にしていくのかを考えると、「観光資源を作る」という視点ではなかなか難しいと思います。都市観光というのは文化観光なので、文化の振興という面で魅力を高めていかないといけないわけです。そのような意味では、世界的に「創造都市」という動きがあり、日本では神戸や横浜、金沢がその指定を受けています。東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラムの中で、「東アジア文化都市」という取り組みが行われており、来年は金沢、再来年は豊島区がこの東アジア文化都市に承認されまして、様々なイベントが開催されます。そのような意味で、もう一度文化というような視点から見直せば、台東区の方がはるかに資源的に色々あると思いますので、そのような戦略が必要かと思います。

## ○委員

今、委員長から文化と観光の関係についてお話がありましたので、私からもその両者の関係について少し発言させていただきたいと思います。

国の観光庁が、国土交通省の外局ということで、首相を座長にした戦略会議を設置しているのですが、その戦略会議の中には文化庁、環境省、農林水産省という文化環境、自然環境、食文化、要するに観光の目的になるようなものを所管している省庁が入っていません。観光では、文化や町並み、自然環境、食文化など行った先の文化を経験することが一番大事なのですが、結局日本の観光政策は、運輸や宿泊など観光手段の産業をいかに発展させるかということ議論し、目的と手段の主客転倒が起こってしまっています。国レベルでもそうです。

しかし、台東区の上野、浅草は、これから4,000万人を目指そうという外国人観光客の恐らくほとんどの人が行く場所です。そこで何を感じて帰っていただくのかはとても大事で、台東区の観光が振興するかというところにとどまらず、東京のイメージ、日本のイメージをつくって帰るので、今後の日本の外交政策や安全保障を考えても、日本ファンをきちんと作る非常に重要な観光の対象、デスティネーション（目的地）になっていると思います。ですから、観光政策の目的に、「リピーターを増やす」というような表現はあるかもしれませんが、それよりも台東区の文化、そして東京の文化、日本を好きになる人をつくる、そのことをきちんと明示的な目的に掲げたほうが良いと思います。「幾らお金を落として買ったか」ということももちろん重要です。お金が落ちるから、文化的なコンテンツを保存し発展させるところにお金が使えますので、その仕組みも当然必要ですが、まずは魅力をつくらなければいけません。その魅力は何かというと、日本の文化、台東区の文化を好きになってくれる、日本を敵視するような人を増やさないことです。特にアジアの方々が、第2次世界大戦の色々なものを引きずっていらっしやって、とりあえず今は日本に来て、珍しいものを見て、

写真に撮って SNS に上げて、というようなことで喜んでいるのですが、それでは好きにならないと思います。日本の文化を素晴らしいと思ってもらうためには、まず台東区の人たち自身が地元の文化を大事なものとしているというところを見せないといけません。観光客用につくったいかにもというものを見せたのでは駄目です。パリやウィーンに行っても、観光客向けの色々なショーがありますが、あれを見ても駄目で、やはり地元の人が大事にしている文化を見せなければいけないということがあると思います。

それから、この間の審議会のおきにも出ましたが、色々なバックグラウンドを持った方々がいらっしゃいますので、その人達を差別したり排除したりすることなく、イスラム圏の人もいらっしゃるの、そのような方々を温かく受け入れることが必要です。例えばヨーロッパなどに行くと、何となく東洋人は差別されるというような感じを受けますが、日本に来ればそのようなことはなく、色々な国の人、色々な宗教やバックグラウンドを持った人も温かく迎えてくれる、それはホスピタリティの一つです。その中できちんとした文化理解のようなものを、学校教育の中でも、いろいろな文化政策の中でもやっていて、区民の価値観があるからこそ、来た観光客が日本を好きになって帰ると思います。総合的な戦略として観光政策を展開することが重要で、これは単に台東区の観光業の振興にとどまらず、東京や日本の将来にかなり影響を与える重要なものとして位置付けることが必要かと思えます。

## ○委員

今お話をお聞きして、台東区が持っている魅力という中で、やはり文化というものが非常に強いと思います。この小委員会では産業・観光・文化・環境と言っていますが、文化には歴史的なものがあります。この節目がちょうど来年でして、明治政府が開府された 1868 年から 150 年になります。その節目にあたり、それを前面で主張しようと思ったら、ジャイアントパンダのことでほとんど流れが変わってしまいました。

20 年後という環境も変わってくるし産業も変わってきますが、歴史文化は不変なものです。特に台東区はその魅力を十分持っているということで、個性を十分に出していけば、非常に楽しみが多いと思っています。

持てるものをいかに整理するかで、今委員が言われたように、小手先ではなく、重層的な歴史などを知ってもらうことによって日本を知ってもらう、それが台東区に全部凝縮していることを誇りに思っていますので、そのようなことを PR していきたいと先ほど思いました。

## ○委員

観光についてですが、今おっしゃっていたように、観光客も日本が好き、台東区が好きで、区民の方々もシビックプライド（都市に対する市民の誇り）を持っているというような状況であれば、観光分野の資料 3 の区の抱える課題⑦の「観光客が訪れることで心配するマイナスの影響」は減少すると思います。台東区が好きな人、日本の文化が好きな人が、わざわざ

ごみが落ちていないところにごみを捨てていくかという多分捨てていきません。そのような方々を増やすことで、台東区の文化も守られるし、観光客もきちんと維持できるというような状況がキープできるのではないかと思います。

ただ一方で、20年後の日本全体を見たときに、果たして現役世代が観光に行く余裕があるのかというところは、少し考えなければいけないかと思います。というのも、結局シニア世代が増えていくという中で、日本全体の社会保障制度が現在の状況であると、現役世代がシニア世代を支えることになっています。そうすると、現役世代の給料、報酬が全て吸い取られてしまって、多数派であるシニアの年金や医療費に消えていってしまうので、これから先の20年間勤労世代はいくら働いてもなかなか余裕を感じることができないと、『残酷な20年後の世界を見据えて働くということ』という本には書いてあります。

そのような状況の中で、観光をしに行くかというところ、多分行けないと思います。行きたくても行けない、そもそも行きたいとも思わないかもしれません。では台東区はどこをターゲットにするのか、外国の方をターゲットにするのか、それとも余裕のあるシニア世代なのか、でももしかすると足腰が悪いかもしれない、そのような方をターゲットにするのか、というようなところも考えていかなければいけません。

一方で、IT化が進んでVR観光、バーチャルリアリティが進んだとしたら、家にいながら観光できるのではないかと、もしかすると匂いもかげるかもしれない、食べるものも20年後には何か物質を食べたら味わえるというものがあるのかもしれません。そうすると、台東区に来る意味はどこにあるのか、というところから遡って、20年後の姿からの望ましい姿ではなく、20年後にあり得る姿から逆算して考えないと、この観光分野にしても、多分IT系の人材が足りなくなっている産業分野にしても、なかなか難しいと思います。ではその時にどうやって観光を主として稼いでいる方々が維持できるのか、観光で日本が儲けることができるのか、を考えていかなければいけないと思います。

VR観光は既にあります。アプリや、眼鏡を掛けるとそのような観光ができたり、最新のところでは匂いが出てくるというようなものがあるぐらいです。どのような観光が必要なのかについて、20年後にあり得る姿から戻って「今どうしなければいけないか」を考えることも必要です。恐らく観光などで望まれるのは、先ほど将来必要とされる職種という資料をいただきましたが、人と人との関わり、旅先での人との触れ合いなのかと個人的には思っています。そうすると、今話題のホームステイ型の民泊で、現地の違う文化の人と1～2週間泊まることで交流して触れ合い、お正月になぜ鏡餅を飾るのか、というような細かい日本の文化を体験し、コミュニケーションをとるということが、旅や観光や文化を体験することの良さになってくるのかと思います。結論がないのですが、課題としてはそのようなところがあるかと思います。

## ○委員長

VRなど色々なIT技術で、「行かなくても済むのではないかと」という意見もある一方、今

インスタグラムなどでビジュアルを見ると、本物を見に行ってみたくなるというプラスのほうも多いのかと、少し楽観的にも考えています。

## ○委員

今委員から、若い世代が高齢者を支えていくというお話があったのですが、実際にはそうではない状況があるのではないかと考えています。現在、個人の金融資産が1,850兆円あり、段々増えています。株価の上昇が主要因のようですが、この資産を持っているのは誰かというところ、高齢者がほとんどです。それを考えると、これから先も若い世代が高齢者を支えていくというような切羽詰まったことではなく、むしろ高齢者にどのようにきちんと相続税を払って相続をしてもらうのか、お金を使ってもらうのか、観光してもらうのか、このようなことが非常に重要なのかという気がします。

一つ別のことを申し上げますと、4枚の分野ごとの基本構想検討シートが出ていて、項番4には区の抱える課題があつて、ある程度深掘りして掲げてあります。しかし、これに対する項番5のほう、方向性なので抽象的になるのかもしれませんが、そのような方向に持っていくにはどうしたら良いのか、というところが見えてきません。それから、台東区に特有な取り組みというところが、よく見えてこない気がしました。環境分野の項番5のところを見ていただくと、「低炭素社会の推進」、「環境美化活動の充実」、「ごみ減量の推進」、「資源循環の促進」など、これは全国どこの市区でも当たり前のことです。国の低炭素社会推進の方針、あるいは3Rの方針など、そのようなことと全く変わらないような方向になっています。その方向自体は良いのですが、もう少し台東区にふさわしい方向性を示せれば良いと感じました。

## ○事務局

今ご意見をいただいた点についてですが、今後具体的にどのように取り組んでいくかは、この後の長期総合計画、行政計画というところで具体的な検討を進めていきたいと考えております。今委員ご指摘の台東区らしさを象徴する部分がなく、どこの自治体でもやっている内容しか書いていないのではないかと、というのはごもっともです。逆に、その辺の何か本区に合ったこのような取り組みの方向性があるのではないかと、というご意見ももしただけるのであれば、今後の20年後の望ましい姿をつくっていく上で、事務局として参考にさせていただきたいと思っておりますので、次回でも結構ですので、そのようなアイデア出しをしていただけると大変助かるというのが率直な事務局の意見です。

## ○委員

台東区らしさというお話ですが、先ほど宗教の自由のことをおっしゃっていました。昔の地図でお寺は赤く記されているのですが、台東区を古地図で見ると真っ赤です。お寺のある日本の代表的な場所が谷根千などですが、浅草は浅草寺、上野は寛永寺、そういったお寺が

この台東区の大きな特徴だと思います。行政が宗教に絡んだ行事というものに前向きでない、取り組みにくいということがありますが、それを台東区はあえて取り組んでいく必要があると私は思います。京都はどちらかというと前向きに取り組んでいます。京都にお寺がなかったら、全く何の魅力もない町になってしまいます。台東区はせつかくあるのに、そういう利用の仕方をしていないというところが、私は大変もったいないと常々思っています。

それからもう一つ、この台東区には、例えば畳、障子、ふすま、着物、かつら、帯、かんざしといった文化があって、花柳界がそういったものを支えています。それらの全てが日本の文化であり、一つ欠けても歌舞伎もできなくなってしまいます。そのような産業一つひとつがこの区にはあり、これを大事にする象徴が花柳界であろうと思います。今は東京都に6つしか花柳界がなくなってしまい、段々衰退の一途をたどっていますが、これは台東区が持っている大きな財産だと思います。お寺と花柳界、相反するようですが、これが台東区の特徴だろうと、そのように思います。

## ○委員

23 区広しといえども、歴史的人物のストーリー性、そしてその歴史、その双方の魅力を持ち合わせているのは台東区しかないと思います。それを生かすという点で、先ほど VR のお話がありましたが、間違いなく 20 年後もライブ感でこの台東区へ行きたくなるという、それを私どもは促進しているわけです。回遊性の向上、長時間滞留の実現ということで、台東区内の浅草、上野、谷中も全部回ります。それから先ほど言われた産業、観光、文化、環境、全部結び付く点で言うと、治安環境が良く、来た人がもう一度来たくなる、台東区は面白かった、と肌で感じてもらうことを我々は目指していますし、そういったパブリシティ効果を狙ってどんどんアピールしているつもりです。そういう点でいうと、別に悲観する必要もないし、難しく 20 年後を考える必要はありません。

ただ、私が今一番考えていることは、私の年齢が 64 歳ですが、20 歳下の人間を中心に据えて、次の時代に対する活動をさせていく、外に対する台東区のアピールをさせていく、人事的な変更をいち早くやらなければいけません。私が今辞めたいと言うと怒られますから、あと 2、3 年オリンピックまでやります。人を養成しながら、次は 40 代の人間がやる、そうすると VR もネットの関係も詳しい人間がたくさんいます。先ほど委員が言われましたが、今見た 20 年後ではなく、20 年後に中心になる人たちを育てる、人を育てるということをやっていききたいと我々は考えています。

## ○委員長

人材育成ですね。

## ○委員

先ほど委員がおっしゃっていた国内消費についてですが、私は上野で大型店会議という

ものをしています。前年対比が何パーセントかという、現在各百貨店関係では 90%から 92%です。要するに 8%ほど落ちています。その落ちた理由は、外国人が多いというのも確かですが、売り上げは下がっていません。インバウンドと称される人たちが来て買ってくれているので、消費が落ち込んでいる理由は増税だと思います。要するに消費税増税、国会を見ると口を開けば「増税だ」と言って、減税は一つも出てきません。減税しなければ、我々のような末端にいる商業者のところに消費マインドは生まれてきません。実際大型店でも、女性の着るものはほとんど売れないという状況になってきました。今はコスメや雑貨、上野の丸井を見るとニトリになったりコスメティックの店になったりで、着るものの商売はほとんど成り立っていません。ここで言っても始まりませんが、減税しないと消費マインドは上がりません。

それから給料です。給料は 20 年上っていないということなので、給料を上げていただきますよう、ここでお願いしても仕方ありませんが申し上げておきます。

#### ○委員長

ありがとうございます。先ほどから出ているお寺の話なども関係ありますので、私から少し申し上げたいのですが、環境分野の資料 5 裏面をご覧ください、課題解決に向けた施策の方向性（案）のところの項目です。景観というのは環境ではないのでしょうか。

#### ○事務局

景観につきましては、分野的にはまちづくりのほうに含まれています。

#### ○委員長

場合によっては環境に入っていることもありますので、確認させていただきました。

#### ○事務局

他分野にまたがる分野についてご意見を頂戴できる部分がありましたら、ぜひお出しただければと思いますので、よろしくをお願いします。

#### ○委員長

電柱が空を覆っているような国は、先進国ではありません。これは 30 年やってきましたけれども、あまり進みません。あと 20 年かけてぜひなくしてほしいと思います。

景観のことですが、先ほど委員からお寺の話が出ていました。宗教なので、行政で支援できないということでしたが、金沢市にはやはり寺町というのが 2 カ所あります。これが観光資源なので、山門の修復等については市から 9 割以上の補助が出ています。これは町並みを保全をして、景観を良くするというかたちでの支援ができています。

もう一つ、花柳界の支援はなかなかできないと思いますが、金沢には「ひがし茶屋街」、

「にし茶屋街」、「主計町茶屋街」という三つの茶屋街があり芸者さんがいます。なかなか支援が難しいのですが、芸者さんのお稽古代を補助しています。芸者さんがお稽古するとき、三味線や踊りなどの稽古代を補助していきまして、これは文化の保存ということで補助しているという例があります。少し知恵を絞ると色々な支援できるのではないかと思いますのでコメントさせていただきました。

## ○委員

産業分野についてですが、資料2の裏面です。この上の図表の4「経営者の年齢層」について、大変難しい問題を抱えています。これはサンプリング調査ですので、必ずしも全体像を正確には反映していない部分はあるわけですが、高齢の経営者が多いということで、この課題も出ています。しかし、それ以上に、先ほど委員もおっしゃっていましたが、20年後6割の人がもう80代以上になっていきます。それを前提として、そのプロセスをどうするのか、創業・起業だけではなく、もっと台東区に事業所を呼んでくるなど、そういうことをしていかなないと、20年後を描いたときに産業分野は極めて暗いイメージしか湧かないわけです。その辺を強調して、台東区の産業は6割いなくなって6割増えるということを考えていかなないと、産業分野において新しい課題に向けた施策が出てこないのではないかと思います。

それからもう一点、ここではそれぞれの分野の議論ですけれども、商農工連携についてもいわれています。台東区は、農はありませんけれども、観光があります。商観工の連携した施策が強調されていくと、新しい産業の分野においても非常に寄与してくれるものが出てくるのではないかと思います。

## ○委員長

そのような商業と観光という意味では、台東区は同じ業種が集積しているところ、例えば道具屋さんが集まっているところ、アメ横、キムチ横丁もありますし、靴屋さんが集まっているところもあります。そのような同業種が集まっている町というのはある意味観光的に非常に面白いです。そういう視点で、新しい観光、いわゆる商店街あるいは産業と観光のような視点の新しい観光を作り出していくと、これは商観工の三つにとってそれぞれに良いのかと思います。

## ○委員

今委員長がお話しされたとおり、台東区、特にアメ横は、化粧品屋さんや宝石屋が非常に集積しています。その中で隣同士がカルテルを結ばない、価格協定を結ばないということで競争が生まれ、各店舗に常連客をつくっています。今ショッピングセンターが衰退している原因の一つに、ショッピングセンター内に魚屋や肉屋、お茶屋さんもそれぞれ1軒しかなく競争がないことが挙げられます。郊外型のデベロッパーがつくるものは、我々は相手にして

いません。アメ横の活気は、お互いが商売で切磋琢磨して客をつかむという意欲や、対面販売でやっている点が強いのだと思いますし、スーパーマーケットとも違う点がアメ横では生きており、台東区の持ち味の一つでもあります。観光産業と呼んでいます。アメ横を生かすためにはどうしたら良いかというと、観光で呼んでおいて商業をやる、双方を全部持ち合わせて非常に重層的に、今言われた部分は、環境さえ良くなれば、あとは良くなると思います。

上野を外から見たイメージは非常に古いイメージがあり、「上野は古いからあまり行きたくないから渋谷や新宿へ行く」という人もいますが、我々は都市間競争で台東区の持ち味、個性をとにかく売って客を呼び込むことを考えており、先ほど言われた商業的な部分、産業的な部分でいうと非常に強いものを持っています。ジュエリータウンも問屋さん相手にやっていたのですが、今度は小売をやるという方向に変わりました。キムチ横丁もあります。持ち味のあるところはたくさんありますので、これは台東区の個性として生かしていったほうがいいと思います。

## ○委員長

これは観光資源そのものだと僕は思っています。

## ○委員

産業分野について、どちらかというと比較的若い世代から悲観的な目で見ると、20年後には今存在していない仕事に65パーセントの人が就くともいわれています。そうすると、多分産業自体も変わっていると思います。今は存在しない仕事とはどのような仕事なのか私にも想像が付きません。そのような状況になったときに、区民の方々がきちんと働いて日々の糧を得ることができるようにするためには、現在働いている人もそうですし、子供たちに対してもキャリア教育が非常に重要になってくるのではないかと思います。終身雇用制度でなかったとしても、事業を自分でやったとしても、20年後は分からないので、臨機応変に時代に対応できる能力をしっかりと付けていかないと、今後生き残っていけないのではないかと考えています。キャリア教育という意味では、教育の分野に入ってしまうのかもしれないかもしれませんが、産業振興をしていく上では、そのようなところに対応できる人材を育成することもとても重要です。先ほど観光のところでも40代を育てなければというお話がありましたが、本当にどの世代にも共通して育てていかなければいけないということがあると思います。

商店街など今既存のお店も、産業構造、もしくは働く人たちが変化していくと思います。例えば産業分野の基本構想検討シートの区の抱える課題の⑥に、「人材不足や産業構造の変化に対応するため、若者・女性・高齢者などの多彩な人材の活用を進めていく必要がある。」とあります。20年後に皆が働いているという状況において、多様な働き方であれば分かりませんが、例えば9時から17時で働くとなったときに、商店も9時から17時でやっていたとすると、買い物に行きたくても行けなくなってしまいます。私もOLとして働いていた

時、地元の商店で買いたくても、帰って来る頃には閉まっており、朝行くときにはまだ開いていないため、せっかくおいしそうなお惣菜があっても買えないという状況でした。でも、例えば台湾では朝ご飯は基本外で食べるということで食文化が発達していて、それが当たり前になっています。そのように打ち出していけば、そのうち需要が出てくるのだろうと思います。そのような産業構造や働き方の変化に対応した業種業態の変更、就業時間やお店のオープンの変更についても区としてアドバイスができるのか、公務員の方々の育成も、時代が変化しているというところの認識をきちんと持っていただくということもとても重要だと思います。

### ○委員長

キャリア教育、ワークライフバランス、この分野を越えていますが、非常に大事な事かと思えます。教育については、色々なところから少しずつ出てきまして、これは非常に重要な事かという印象を持っています。

### ○事務局

各小委員会でご出ているご意見については、小委員会同士でこういうご意見があったというところは、お伝えできる範囲ではお伝えさせていただいています。先ほど、景観のお話がありましたが、まちづくりの分野においては、景観も含めて無電柱化の話が出ていました。それから、審議会の中でも委員がおっしゃっていたと思いますが、歩くことが健康につながり、また町を回遊することが観光面にもつながるので、歩けるまちづくりをしていくことが大事なのではないか、というご意見などもありました。参考までにお伝えしておければと思います。

### ○委員長

どうもありがとうございます。色々景観についても出ているようですが、少し付け加えさせていただくと、台東区は舟運で浅草が東京の中心になっているかと思えます。隅田川もそうですが、そこに入る神田川、日本橋川など、家が裏を向いています。川から見ると全然面白くありません。何とかならないのかと思っています。もう少し楽しい風景を作り出してもらいたいと思います。そうしないと、舟運も活性化しないと思いますので、これも景観の課題としてぜひ取り組んでいただきたいと思います。

### ○委員

産業分野について一つ発言させていただきます。冒頭委員長から創造都市のご紹介がありました。今私は港区の文化振興プランの策定をしていて、ちょうどパブリックコメントを担当しています。港区の場合、クリエイティブインダストリー（創造産業）は非常に大事なものだということで、いわゆる非営利の文化とは別に、文化産業ということを掲げています。

そのクリエイティビティ（創造性）が生まれる元には、やはり多様性が必要です。港区の場合はその多様性を国際性でつくっていかうとしています。港区も東京タワーや旧新橋停車場跡など近代化遺産はあるのですが、古いものはあまりありません。ですから、国際的な多様性からクリエイティビティを生み出そうということで、クリエイティブインダストリーを出そうとしています。

そのような意味では台東区はその対極で、非常に歴史的な、時間軸で見た多様性をたくさん持っています。それから、非常にアジア的というか、先ほどのアメ横もそうですがぐしゃっとしたところです。このようなものからクリエイティビティが生まれるというのは、アメリカの都市学者のジェイコブスも指摘しています。東京のいわゆる都市としてのクリエイティビティを生み出す非常に重要な環境があるので、そこを戦略的に、創業・起業にとどまらず新しい産業をつくる、その産業は業種の話だけではなく、働き方、ライフスタイルのようなものも含めると若い世代の人たちが入ってきて働く職場もできてきます。それこそ今ない職業が20年後には6割7割、その一部をこの台東区のいろいろな歴史的な多様性の中からクリエイティブな発想を持ってビジネスを起こしていくというような人がここに住むかもしれません。港区のような人工的な国際性のあるところで生まれるクリエイティビティもあると思いますが、歴史的なところがある中で、ごちゃっとしたアジア的な中から生まれるクリエイティビティもあって、東京の至るところでクリエイティブなものが生まれてくると、東京全体の将来にもつながります。そのような一つの歴史性を踏まえたクリエイティビティを発揮する創造的産業の拠点のような位置付けが入れられると、とても台東区らしいし、将来につながるのではないかと思います。

## ○委員長

観光というのは、時代とともに変わっていくので、同じものをやっていると、段々消費されて価値がなくなってしまいます。そのような意味では、新しい文化をつくっていくという視点がとても大事です。今委員のおっしゃられたような創造性のようなものをどこかに組み込んでいく必要があるのかと思います。金沢などは、加賀百万石の文化の上にあるこの半世紀の文化が今の創造都市として選ばれています。台東区の場合には色々な要素がたくさんありますので、どのようにして新しい時代の文化をつくっていくのが観光にとっても非常に大事です。

## ○委員

別に反対を申し上げるわけではないのですが、長年積み重ねることは観光にはとても大事なことです。その積み重ねてきたものを、まだ知らない外国人がたくさんいます。先ほど川の話をおっしゃっていましたが、隅田川では毎年8月に灯籠流しをやっています。一昨年、都の助成金で別の切り口のものということで、外国人観光客だけを対象に、ホテル旅館組

合に協力していただき、チラシを配っていただき、それを持ってくると船にただで乗ってそこで灯籠流しができますということをやりました。その結果、体験した人が Facebook や Twitter などですらでどんでん情報を流したものですから、翌年から外国人が来て灯籠を流すということが増えてきました。今年墨田区と観光で提携することになって、墨田区も来年はぜひ一緒にやりたいと区長も言っています。

そのような流れで、これは決して新しいことではないのですが、昔は先祖代々の霊と書いて流していたものが、今はお子さんが「僕は野球選手になりたい」など、七夕のような感覚になっています。長い歴史の中で、人が変えていってくれる部分があり、それが新しい発見として外国の方の目に映ります。それから浅草、東京を訪れた人がたまたまそこで見かけて、自分も参加できるのであれば参加したいということで、以前の倍位の方が入るようになってきています。そのような古いものを大事にしながら新しい切り口というのが私は良いのではないかと思っています。

## ○委員長

少し誤解を生んだ発言だったかもしれません。私が申し上げたことは、今おっしゃったことと全く同じで、金沢は古い伝統の中、工芸などで創造都市になっていますが、もともとそれはこの半世紀に生まれたものです。それがあつたから金沢美術工芸大学という大学ができ、さらにそこで今度は現代アートなどもやって、そして今 21 世紀美術館という現代アートで非常に人気の美術館ができてというような流れの中に新しいものを取り込みつつ、そのような分野が発展しているということです。全く異論はありません。古いものは大事にしながら、新しいものに挑戦していくということです。

## ○委員

付け加えさせていただきますが、先ほどの川の話でもう一つ、桜の時期にはライトアップをしたりしています。そこで今度実行委員会にしまして、それを機会に観光連盟青年部を立ち上げました。そのようなところを若い方たちに仕切ってもらうことによって、新しい切り口が生まれてくると思います。またそのような若い人たちが育ってくることを期待しています。

## ○委員

台東区には四つの観光連盟がありますが、こんなに観光連盟がある区はありません。それだけ非常に重層的な歴史文化があるということです。

それから先ほど事務局が言われた歩けるまちづくりは完成しました。上野では御徒町地区の開発が非常に大きなことです。上野と御徒町間は 600m あります。人が快適に歩ける距離は 600m で、アメ横の距離です。回遊の基本は、行ってみたいところがあつて、その目標に行くことです。それができたのが上野フロンティアタワー、松坂屋のところと、それか

らおかちまちパンダ広場です。この間広場でアイススケートをやり、区長も来ました。御徒町のホームからスケート場が見えるのですが、ホームに人がたかかってしまって危険な状態になるぐらいでした。また、「学問の道」もつくりました。御徒町駅南口から文京の湯島天満宮へつながる道です。これはメトロの湯島だけではなく、御徒町駅から行ったり来たりする、それをつくって、その横に先ほど言われたジュエリータウンおかちまちがあります。

このように、アメ横のごちゃごちゃ感と、その中で歴史文化をもちろん大事にしていますが、新しい取り組みとしてパブリシティ効果がとても上がっています。このようにテレビにどんどん取り上げてもらうということ、私は上野の広報部長をしていますので積極的にやっています。とにかく行ってみたいくなること、何度でも行きたくなること、興味を持たせることが、視聴者の方々が台東区に行く要素の基本だと思います。ターミナル駅上野であって、そこから浅草に流れるなど、そのようなことが全部できます。

台東区の魅力はそれだけあるわけです。そのように外に対する PR はどんどんやっていって、人が多すぎて困る、交通整理をしなければいけないというところなんです。

## ○委員長

上野地区は人が多すぎますね。

## ○委員

もう多すぎます。

## ○委員

委員がおっしゃるように、マスコミを活用するのはとても大事なことです。つい最近松坂屋の裏で待ち合わせをしていて、あそこにスケートリンクがあることを初めて知りました。このように知らないことがとても多いです。

私は、浅草七福神の神社にお手伝いに行っているのですが、外国人の方がとても増えています。平日は全然来なかったような神社なのですが、今は平日も人がいないと駄目な状態です。そこでは、「めぐりん」を使って回ることを教えたりしています。「めぐりん」については、谷中や池之端から乗ってくる大きいスーツケースを持った外国の方が「めぐりん」を利用する際に1万円札を出し、「今はお釣りがいいから次に乗ったときに払って」と運転手さんがおっしゃっていたのですが、結局その外国人は京成上野駅で降りて、帰国されていた、ということがありました。そのことがインターネット等を通して皆知ってしまい、今はないかもしれませんが、一時は多くの方がそのような乗り方をしていました。

それから着物です。外国の方が貸衣装で、家族で着物を着て、とても派手な格好で歩いています。神社にも着物を着ている方がいますが、皆外国人かと思うと、最近若い女の子が着物を着て御朱印回りに来ています。お寺や神社が台東区にはとてもたくさんあるので、今御朱印がブームですから、それを利用しても良いかと思います。

それから IT を使う方が多いですが、IT は調べるだけで、心には伝わってきません。HP 等を見て、台東区に来て、やはり良かったと思われるような使い方をしていただけるような方向に持っていくと良いと思いました。

それから気になるのは、外国人の方は道を広がって歩きます。そうすると、「邪魔だよ」と怒鳴っている方がとても多いです。言葉は通じていませんが、やはり外国の方は怒られているのは分かっているようで、さっとどきます。私が住んでいる辺りでその光景を何回も見ますが、「もしかしたら次にもう日本には来てくれないかな」とも思います。委員が言うようにもっとたくさん台東区を PR してほしいと思います。

## ○委員長

心の問題、本当のおもてなし、その辺を考えていきたいと思います。今東京都のほうでもアクセシブルツーリズム（移動やコミュニケーションの困難に直面する人々のニーズに答えながら、誰もが旅を楽しめることを目指す取組み）がテーマになっています。エレベーターの設置率は、東京は世界でもトップクラスだそうです。ハードではそうですが、色々な対応などソフト面については最悪だといわれています。車椅子の人を優先的に乗せなかったり、優先席に元気な人が座っていたり、外国人に差別的なことをしたりなど、心の面ではどうも追い付いていないというようなことで、時間はかかるけれども、これを何とかしていかなければいけません。おもてなしというと、何となく金儲けに使われるようなおもてなしの使い方が多いので、私はあまり好きではありません。本当の意味で歓迎する気持ちをどう示すのかということ、教育の段階からしていかないと、本当の気持ちが生まれないのではないかという意見も出ています。これも先ほどから出ている教育ですが、子供たちからそのような差別の意識をなくすようなことを、アクセシブルツーリズム、あるいはユニバーサルツーリズム（すべての人が楽しめるよう創られた旅行であり、高齢や障害等の有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく参加できる旅行）、一般的にはバリアフリーと言っていますけれども、東京オリンピックまでにはなかなか間に合いそうもありません。しかし、これを機会にそのような方向に転換したという、観光から始まってオリンピックのレガシーになったら良いというようなことを東京都は言っていますので、それをぜひ外国人が多い上野からやったらどうかと思います。

## ○委員

文化の違いですね。今は減っているようですが、集団で大声を出すのは主に中国の人で、カートをもって横から突っ込んでくるからぶつかってしまいます。おもてなしが大事なのは分かるのですが。

「ここではこうしてください」と、ルールをビジュアルで PR するなど、交差点の辺りで大々的にやらないと無理です。スクランブル交差点になっている渋谷ではないので、普通に

歩いてもらわないと困るのですが、横から突っ込んできてしまいます。

### ○委員

結構怒鳴っている人は多いです。日本は治安が良いのですが、多分スーツケースを持って歩かないといけないと思っている外国人も一部いるのでしょうか。

### ○委員

なぜ持って歩いているのでしょうか。ホテルに置いておかないのでしょうか。

### ○委員

外国はなくなる場合が多いですから、それで持って歩いている人もいるという噂もあります。

### ○委員

日本の治安が一番良いのですが。

### ○委員

そうなのです。その辺をもっと PR すれば良いと思います。

### ○委員長

日本に何回も来ていると、日本人のマナーの良さが分かって、彼らも学習すると思います。日本人のマナーも以前はひどかったです。海外に行って寝間着で廊下を歩いたり、スリッパでロビーに出て行ったり、お金を腹巻きから出して何かやったりなど、昔は本当に非難されました。今はすっかり品の良い顔をしています。これは本当に最近のことです。車の運転マナーも本当に日本はひどかったです。それが良くなってきました。今は中国の人たちも勉強していると思います。

### ○委員

私は外国人を対象に、そのようなマナーを少しずつ折り込んだような漫画を誰かに描いていただくのが、一番分かりやすいと思います。前にイタリア人のサッカー選手が『キャプテン翼』を読んでサッカー選手になろうと思って一流選手になったという話を聞きました。日本の漫画は説得力がとてもあります。ぜひとも誰かにそれを描いていただきたいと思います。

### ○委員長

今、外国人のマナーの悪さに対して、何とかしてやろうというような話になっていますが、

それも大事かと思うのですけれども、日本人がまだまだ本当に心からアクセシブルツーリズムの気持ちになっていないというのが私の思いです。外国人に対して同じレベルで喧嘩をしていたら話にならないと思います。

## ○事務局

審議会もそうですし、各小委員会に通じて、やはり外国人の問題については、様々な角度から議論が出ています。それから、既にご報告をさせていただきましたが、区民ワークショップの中でも「外国人」というキーワードはどの分野でも出てきています。ただ、区民の皆さまの意識としては、「どうやって受け入れていこうか」、「どうやって共生していこうか」という視点が非常に多かったので、その辺は委員長が言われるとおりです。また教育の分野においても、今は小学生が浅草寺などでちょっとしたご案内をしたり、声掛けをしたりなど、授業の一環としてそのような取り組みも始まっていますので、徐々にではあるのかもしれませんが、そのような意識、外国人と共生していくという意識は醸成されつつあるという感想を持ったところです。

## ○委員長

対外国人と、それから対日本人のほうも、我々自身のことだから気が付かないのですが、実は他の国から見ると、日本は遅れていると見られています。

## ○委員

区民の意識ということが出てきましたので、関連して環境分野で申し上げます。次回は20年後の在り方についてのキーワードを取りまとめるということですので申し上げますが、この分野においては、特に意識改革、意識の高揚、これが一番重要なキーワードであると考えています。その面で最近この分野で実績が上がっています。

台東区において2013年から2015年にかけて、区を3つの地区に分けて、ごみの戸別収集をやっています。集合住宅は対象外になりますが、戸建て住宅について戸別の収集をしますと、小さな事業所もその店の前にごみを出すということになりますので、排出マナーが改善されるという成果が出ています。事業系は、45リットル程度の袋でも結構高く、400円近くするのではないかと思います。有料のごみ処理券をコンビニ等で買う必要があります。以前はこれを貼らないで、家庭ごみの収集ステーションに出すという事業者が非常に多かったです。地区によって違いますが、5割ぐらいのところもあったようです。それが、この3年間で戸別収集が拡大していくにつれて、ごみ処理手数料が1,000万円位ずつ増えているという成果があります。それから、まちがきれいになったということで、「自分が出すごみ、あるいは自分の店が出すごみについて責任を持たなければいけなくなった」、「きちんと分別しよう」と意識が高まったという非常に素晴らしい成果が上がっています。

このようなことから考えると、環境分野においては、区民、事業者の意識を高めるような

枠組みを、行政が制度設計して提供していくことが非常に重要だと考えています。

例えば事業経営対策として、少し具体的に言えば、ごみを出さないようにしようという食品ロスの削減が挙げられます。今は主要な都市、県レベルで、「食べきり協力店登録制度」を立ち上げて、お客さん協力の下に、店側でメニューの小盛りを提案する、あるいは火が通ったものを中心に食べきれない場合に持ち帰りのプラスチックパックを用意する、店内に食べきりのポスターを貼るなど、色々な取り組みを店側でやりやすくするよう、行政がそのような枠組みを提供しています。

また、家庭系のごみを今は無料収集していますが、実際は収集コストがキロ数十円というようなかたちで随分コストがかかっており、このコストは税金で賄われています。自分が出しているごみについてのコストに全く無頓着で、環境負荷についても全く思い至らず、負担とごみ排出量が全く関係ありませんから不公平になっています。よって、このようなことを是正する仕掛けが必要です。全国の6割以上の自治体が、家庭ごみの処理費の2割程度を有料化しています。残りの8割は税金ですが、一部有料化をしています。その結果、ごみの減量効果は可燃ごみ等について2割程度出ています。

このような仕掛けを検討する取り組みや、あるいは出てしまった生ごみをバイオガス化してメタンガスを生成し、これを固定価格買い取り制度で電力会社等に売却し、残渣（溶解・濾過などのあとに残った不溶物。残りかす。）を肥料等にして農家に使っていただくという取り組みも、先進的な自治体では既に始まっています。ごみの減量について、台東区だけというのはなかなか難しいところもあるでしょうから、23区一緒になって資源化の20年後の在り方について考えていくというようなことが重要ではないかと考えています。

## ○委員

先ほども言いましたが、台東区全体として、歴史・伝統・文化などを本当にたくさん持っているので、例えば「行ってみよう台東区」など、そういった行政の広告PR全体として皆に知らしめるということが必要です。外国の方もそうですが、例えば羽田空港や成田空港で見せる、海外に向けて発信する、それから日本国内の方々にも発信することです。「台東区にはこのようなものもある」、「このような触れ合いもある」、「浅草寺はこうだ」、「アメ横はこうだ」と、拠点ごとでも良いですから、外に向けたPRをもっと行政全体としてすると良いと思います。台東区に行ってみようというPR動画でも何でも良いから、先ほどの漫画もそうですが、漫画でも動画でも良いから、このような会議で決めたことは次々にどんどん外に向けてやってください。細かいことは大体分かって、自分たちは満足しているのですが、我々ではなく第三者的にどうかということが一番大事なことです。行ってみたくなる台東区を築き上げてほしいと思います。

## ○委員

先ほどの委員のご発言の補足です。以前荒川区の区長とお話する機会があり、聞いたの

ですが、荒川区の小学校は給食の残りがゼロだそうです。なぜかという、全部静岡の肥料メーカーが引き取ってくれるということで、今年からゼロになりました。今後は、この取り組みを中学校にまで上げていく予定になっているそうです。肥料にして九州のブタを育てているそうです。

## ○委員

大都市においてはバイオガス化など無理ではないかという考えをお持ちの方もおられると思います。実はソウル市の東大門という繁華街の地下にバイオガス化のプラントが設置してあります。私自身はそのプラントに行ったことはないのですが、地下式になっていて、周りは業務用のビルがあり、その上が公園になっていて、そこから少しだけ発酵槽の上の部分が見える程度とのことです。そのようなことを考えると、東京でもできないことはないだろうと思います。神田川が先ほど出てきましたが、イメージとしては神田川の脇、飯田橋辺りにあるというような感じです。東京でやろうと思えばやれないという話では決してないと思います。新宿の西口公園や神田川の脇など、土地さえあればやれるというのが、世界の最先端の自治体の取り組みです。

## ○委員

花柳界のことで、外務省から観光課を通じて浅草のほうに要望がありました。昔どこでも電気がない時代はろうそくや油の明かりで生活していたわけで、お座敷もそのような状態だったというのを再現してやったところ、外務省のどなたかの耳に入ったようです。来年2月に、東京で初めて外務省が外国の方を対象にした日本文化の紹介を行うということで、浅草に要望が来ました。大使の方を含め30人ぐらいの方がおいでになり、ぜひ見たいということです。外国がそれだけ認めてくれているものがなくなってしまうというのは、本当にもったいないということを重ねて申し上げたいと思います。

## ○委員長

ぜひ支援をお願いします。今花柳界の話が出ましたが、外国人に対して日本文化を、これは観光資源そのものですが、今観光と非常に似た分野で MICE（企業等の会議、学会等が行う国際会議、展示会・見本市など多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称）があります。MICE はここでは観光で扱うのでしょうか。

## ○課長

東京都も観光分野で MICE のほうを中心に進めているというところがあります。ただ台東区には大きな会議施設がなかなかないというところで、計画などにも MICE の中身は直接入れ込んでいないという状況です。

## ○委員長

MICE で今ユニークベニュー（歴史的建造物、文化施設や公的空間等で、会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場のこと）というものが話題になっています。本会議は大きなコンベンション施設でやるにしても、レセプションや分科会などを庭園でやったり美術館でやったり水族館でやるという例もあります。そのようなユニークベニューの一つとして考えると、台東区には他ではできない色々な体験ができるものがあって、これは大いに見直されるのではないかと思います。そのような視点はぜひ入れたらどうかと思います。

## ○委員

宗教絡みで、本願寺さんなどは、ジャズコンサートを 200 人ぐらい入れてやったことがあります。あそこは御本尊の扉を閉めると、金ピカの扉になっていまして、それをバックにジャズコンサートをやったら大変評判が良かったです。お寺をそのように利用ができるようになれば、いくらでもあると思います。

## ○委員

今は運慶や「怖い絵」展など、上野にある美術館等に 3 時間、4 時間並びますので、上野の山文化ゾーンの各施設同士、我々観光連盟も交えて、整理券を発行し、「この時間に来てください」というかたちを取っています。国立博物館や科学博物館など、皆やってもらっています。この方法を取るようになって、観光客が時間まで待っている間に回遊するようになりました。回遊性の向上のために、少し時間が空いたから商店街に行ってみようなど、そのような施策をいろいろと打っているところです。

それから谷中の歴史的建造物を含めて、建築ツアーを私どもでやっています。ル・コルビュジェの世界遺産をきっかけにして非常に人気が高まっています。宣伝になりますが、いろいろな意味で回遊するということは大いに促進して、駅、町の一体化をやっていますので、そのような点をご案内しておきます。待ち時間対策です。

## ○委員

今観光課長がおっしゃった会議場がないということですが、昔東京都文化会館の館長が嘆いていましたけれども、うちの会議場は国際会議場だということを言っていました。通訳ブースがある国際的な会議場です。そのような会議場を館の中で色々持っています。東京国立博物館にもあります。

それから、東京国立博物館は夜閉館したと同時に貸し出しをしています。幾らなのか聞いたところ、全体を貸し切って 100 万円を切るぐらいのようです。今までルイ・ヴィトンなど

がパーティーを開いています。国立科学博物館でもやっています。

#### ○委員長

今東京都では8施設を開放しているということなのですが、上野ではもう幾つかやっているのですね。

#### ○観光課長

先ほど言われたユニークベニューの例としましては、東京国立博物館等でやっている例を私どもも把握している状況ですが、まだ数が増えていないという状況です。

#### ○委員長

今基本的に先行して開放しているのは都の施設となっています。もう少し民間やお寺など、ぜひそのようなところでいろいろな会議やレセプションなど、アフターのものができるすると、非常に台東区らしいと思います。

他に何かありますか。今日の中心的なテーマは、課題と解決に向けた方向についての議論でして、具体的ないろいろなアイデア等はまた次回以降にやっていきます。

それでは、そろそろ時間ですのでよろしいでしょうか。それでは、これで本日の議題を終りにしたいと思います。事務局のほうにお返しします。

### 3. その他

#### ○事務局

—次回審議会についての説明—

### 4. 閉会

#### ○委員長

他に何かありますか。よろしいですね。それでは、これをもちまして第1回台東区基本構想策定審議会小委員会第3グループを閉会いたします。それでは、皆さま良いお年をお迎えください。本日はどうも長いことありがとうございました。

(午前12時00分閉会)

以上